

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 福岡財務支局長

【提出日】 平成31年1月11日

【四半期会計期間】 第40期第3四半期(自平成30年9月1日至平成30年11月30日)

【会社名】 株式会社きよくとう

【英訳名】 Kyokuto Co., Ltd.

【代表者の役職氏名】 代表取締役会長兼社長 牧 平 年 廣

【本店の所在の場所】 福岡市博多区金の隈一丁目28番53号

【電話番号】 (092)503 - 0050

【事務連絡者氏名】 取締役管理本部長 安 武 浩

【最寄りの連絡場所】 福岡市博多区金の隈一丁目28番53号

【電話番号】 (092)503 - 0050

【事務連絡者氏名】 取締役管理本部長 安 武 浩

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次		第39期 第3四半期累計期間	第40期 第3四半期累計期間	第39期
会計期間		自 平成29年3月1日 至 平成29年11月30日	自 平成30年3月1日 至 平成30年11月30日	自 平成29年3月1日 至 平成30年2月28日
売上高	(千円)	5,396,226	5,389,224	6,636,867
経常利益	(千円)	513,773	505,203	289,962
四半期(当期)純利益	(千円)	325,941	305,367	136,438
持分法を適用した 場合の投資利益	(千円)			
資本金	(千円)	555,092	555,092	555,092
発行済株式総数	(株)	5,551,230	5,551,230	5,551,230
純資産額	(千円)	3,904,415	3,834,267	3,641,779
総資産額	(千円)	5,492,152	5,330,288	5,022,976
1株当たり四半期 (当期)純利益金額	(円)	60.85	58.04	25.58
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額	(円)			
1株当たり配当額	(円)	5.50	5.50	11.00
自己資本比率	(%)	71.1	71.9	72.5

回次		第39期 第3四半期会計期間	第40期 第3四半期会計期間
会計期間		自 平成29年9月1日 至 平成29年11月30日	自 平成30年9月1日 至 平成30年11月30日
1株当たり四半期純損失金額()	(円)	3.62	5.46

- (注) 1 売上高には、消費税等は含まれておりません。
2 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
3 持分法を適用した場合の投資利益は、関連会社が存在しないため記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第3四半期累計期間において、当社が営んでいる事業の内容に重要な変更はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第3四半期累計期間における、本四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在していません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 経営成績の分析

当第3四半期累計期間におけるわが国経済は、当初、大企業に企業収益の改善傾向が見られていたものの、原油相場や米中貿易摩擦の動向、国内において深刻化する人手不足などの先行き懸念が、投資活動に慎重姿勢を取らせております。一方、個人消費では、今年10月に予定されている消費税率引き上げの影響などの不透明感が、消費マインドに慎重姿勢を取らせております。

当クリーニング業界におきましては、総需要の減少傾向に加え、クリーニング所施設の総数も全国で減少するなど厳しい経営環境が続いております。

このような状況下、当社は、お客様満足度の向上を目指し、営業面の強化と品質及び生産性の向上に取り組みました。

営業面においては、当社の主力商品である「オゾン&アクア/ドライ」が累計販売数1億点を突破したことを記念して、感謝キャンペーンを9月20日から10月31日までの期間で実施いたしました。期初からは、春の衣替えシーズンに合わせて「春のプレゼントキャンペーン」と「新規ご入会キャンペーン」、7月・8月には、お客様に楽しんで頂くためのイベントとして「ナイターセール」を実施するなど、特別会員数の増大と販促強化に取り組みました。

生産面においては、平成30年3月に技術・品質・生産性の向上を目的として全工場一斉の「仕上げ競技会」を実施しました。

店舗政策は、新規出店として8店舗を出店しました。その内、3店舗は平成30年3月1日付の事業の一部譲受けによるもので、大阪府に3店舗を取得しました。その一方、不採算店の閉鎖や取次店オーナーの高齢化に伴う閉鎖により41店舗を閉鎖し、当第3四半期累計期間末の店舗数は642店舗（前事業年度末に比べて33店舗の減少、前年同四半期累計期間末に比べて38店舗の減少）となりました。

以上の結果、当第3四半期累計期間の業績は、6月、7月の豪雨や度重なる台風に加えて記録的な猛暑など天候の影響を受け、売上高は5,389,224千円と前年同四半期と比べ7,001千円（0.1%）の減収となりました。

利益につきましては、前事業年度の平成29年8月に創設した新しい店長制度に基づく店長の直営店配置や労働力確保のための人件費等の増加で、営業利益は417,662千円と前年同四半期と比べ30,388千円（6.8%）の減益、経常利益は505,203千円と前年同四半期と比べ8,570千円（1.7%）の減益、四半期純利益は305,367千円と前年同四半期と比べ20,574千円（6.3%）の減益となりました。

(2) 財政状態の分析

(資産)

流動資産は、前事業年度末に比べて412,776千円増加し、1,501,532千円となりました。これは、現金及び預金が361,896千円、売掛金が34,338千円増加したことなどによります。

固定資産は、前事業年度末に比べて105,463千円減少し、3,828,755千円となりました。これは、投資その他の資産が68,808千円、有形固定資産が20,756千円、無形固定資産が15,899千円減少したことなどによります。

この結果、総資産は、前事業年度末に比べて307,312千円増加し、5,330,288千円となりました。

(負債)

流動負債は、前事業年度末に比べて178,648千円増加し、886,810千円となりました。これは、未払法人税等が118,572千円、未払金が21,545千円、買掛金が13,469千円増加したことなどによります。

固定負債は、前事業年度末に比べて63,823千円減少し、609,210千円となりました。これは、長期借入金が55,503千円減少したことなどによります。

この結果、負債合計は、前事業年度末に比べて114,824千円増加し、1,496,020千円となりました。

(純資産)

純資産合計は、前事業年度末に比べて192,487千円増加し、3,834,267千円となりました。これは、その他有価証券評価差額金が54,969千円減少したものの、利益剰余金が247,493千円増加したことなどによります。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期累計期間において、事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(4) 研究開発活動

該当事項はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	20,000,000
計	20,000,000

【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成30年11月30日)	提出日現在発行数(株) (平成31年1月11日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	5,551,230	5,551,230	東京証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	単元株式数は100株であります。
計	5,551,230	5,551,230		

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成30年11月30日		5,551,230		555,092		395,907

(6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日(平成30年8月31日)に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成30年8月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式289,900		
完全議決権株式(その他)	普通株式5,253,700	52,537	
単元未満株式	普通株式7,630		
発行済株式総数	5,551,230		
総株主の議決権		52,537	

【自己株式等】

平成30年8月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社きょくとう	福岡市博多区金の隈 一丁目28番53号	289,900		289,900	5.22
計		289,900		289,900	5.22

2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期累計期間における役員の異動は、次のとおりであります。

役職の異動

新役名及び職名	旧役名及び職名	氏名	異動年月日
常務取締役 (兼 保険部長)	常務取締役 (業務本部長 兼 保険部長)	弓削 道哉	平成30年10月1日
取締役 (業務本部長)	取締役 (業務本部副本部長)	井上 和美	平成30年10月1日

第4 【経理の状況】

1．四半期財務諸表の作成方法について

当社の四半期財務諸表は、「四半期財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第63号)に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期会計期間(平成30年9月1日から平成30年11月30日まで)及び第3四半期累計期間(平成30年3月1日から平成30年11月30日まで)に係る四半期財務諸表について、EY新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

なお、新日本有限責任監査法人は、名称変更により、平成30年7月1日をもってEY新日本有限責任監査法人となりました。

3．四半期連結財務諸表について

当社は、子会社がありませんので、四半期連結財務諸表を作成しておりません。

1 【四半期財務諸表】

(1) 【四半期貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (平成30年2月28日)	当第3四半期会計期間 (平成30年11月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	878,892	1,240,789
売掛金	59,199	93,537
商品	23,785	22,893
原材料及び貯蔵品	23,756	25,272
前払費用	76,743	83,566
その他	26,379	35,473
流動資産合計	1,088,756	1,501,532
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	328,898	329,270
土地	1,819,698	1,805,119
その他(純額)	67,833	61,285
有形固定資産合計	2,216,430	2,195,674
無形固定資産		
のれん	17,618	20,237
その他	83,225	64,706
無形固定資産合計	100,843	84,944
投資その他の資産		
投資有価証券	727,128	647,283
差入保証金	540,434	527,854
その他	357,795	381,401
貸倒引当金	8,413	8,403
投資その他の資産合計	1,616,945	1,548,136
固定資産合計	3,934,219	3,828,755
資産合計	5,022,976	5,330,288
負債の部		
流動負債		
買掛金	28,526	41,996
短期借入金	100,000	100,000
1年内返済予定の長期借入金	78,946	74,004
未払金	338,334	359,879
未払法人税等	29,200	147,772
賞与引当金	27,895	39,938
資産除去債務	735	369
その他	104,524	122,849
流動負債合計	708,162	886,810
固定負債		
長期借入金	212,493	156,990
退職給付引当金	132,360	138,880
役員退職慰労引当金	114,698	118,283
資産除去債務	107,080	107,641
その他	106,401	87,414
固定負債合計	673,034	609,210
負債合計	1,381,196	1,496,020

(単位：千円)

	前事業年度 (平成30年2月28日)	当第3四半期会計期間 (平成30年11月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	555,092	555,092
資本剰余金	395,973	395,973
利益剰余金	2,814,607	3,062,101
自己株式	166,866	166,903
株主資本合計	3,598,807	3,846,264
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	42,971	11,997
評価・換算差額等合計	42,971	11,997
純資産合計	3,641,779	3,834,267
負債純資産合計	5,022,976	5,330,288

(2) 【四半期損益計算書】

【第3四半期累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期累計期間 (自平成29年3月1日 至平成29年11月30日)	当第3四半期累計期間 (自平成30年3月1日 至平成30年11月30日)
売上高	5,396,226	5,389,224
売上原価	1,519,656	1,505,311
売上総利益	3,876,570	3,883,912
販売費及び一般管理費	3,428,519	3,466,250
営業利益	448,050	417,662
営業外収益		
受取利息	8	10
受取配当金	5,598	12,673
受取家賃	35,161	35,793
受取保険金	7,888	21,943
その他	22,056	23,108
営業外収益合計	70,714	93,530
営業外費用		
支払利息	1,186	851
賃貸借契約解約損	800	5,051
リース解約損	2,810	
その他	194	85
営業外費用合計	4,990	5,988
経常利益	513,773	505,203
特別利益		
固定資産売却益	18,747	
特別利益合計	18,747	
特別損失		
固定資産売却損		11,109
固定資産除却損	5,012	467
その他	54	
特別損失合計	5,066	11,577
税引前四半期純利益	527,455	493,626
法人税等	201,513	188,258
四半期純利益	325,941	305,367

【注記事項】

(継続企業の前提に関する事項)

該当事項はありません。

(四半期財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

当第3四半期累計期間
(自 平成30年3月1日 至 平成30年11月30日)

税金費用の計算

当事業年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。

(四半期損益計算書関係)

業績の季節変動について

前第3四半期累計期間(自平成29年3月1日至平成29年11月30日)及び当第3四半期累計期間(自平成30年3月1日至平成30年11月30日)

当社の属するホームクリーニング業界は、通常の場合、春の衣替えの時期に重衣料が洗濯物として出されるため春場に最需要期を迎えます。したがって当社の売上高は第1四半期に偏る傾向があり、四半期の業績に季節変動があります。

(四半期キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期累計期間に係る四半期キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期累計期間 (自平成29年3月1日 至平成29年11月30日)	当第3四半期累計期間 (自平成30年3月1日 至平成30年11月30日)
減価償却費	79,118千円	72,008千円
のれんの償却額	16,018千円	5,139千円

(株主資本等関係)

前第3四半期累計期間(自平成29年3月1日至平成29年11月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成29年2月16日 取締役会	普通株式	30,478	5.50	平成29年2月28日	平成29年5月16日	利益剰余金
平成29年9月15日 取締役会	普通株式	28,938	5.50	平成29年8月31日	平成29年11月1日	利益剰余金

2. 基準日が当第3四半期累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動

当社は、平成29年6月1日開催の取締役会決議により、会社法第165条第3項の規定により読み替えて適用される同法156条の規定に基づき自己株式280,000株の取得を行っております。この結果、単元未満株式の買取請求による増加108株を加えて、当第3四半期累計期間において、自己株式が163,589千円増加しております。

当第3四半期累計期間(自平成30年3月1日至平成30年11月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成30年2月15日 取締役会	普通株式	28,937	5.50	平成30年2月28日	平成30年5月8日	利益剰余金
平成30年9月18日 取締役会	普通株式	28,936	5.50	平成30年8月31日	平成30年11月1日	利益剰余金

2. 基準日が当第3四半期累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当社は、ホームクリーニング事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第3四半期累計期間 (自平成29年3月1日 至平成29年11月30日)	当第3四半期累計期間 (自平成30年3月1日 至平成30年11月30日)
1株当たり四半期純利益金額	60円85銭	58円04銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(千円)	325,941	305,367
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る四半期純利益金額(千円)	325,941	305,367
普通株式の期中平均株式数(株)	5,356,143	5,261,295

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 【その他】

平成30年9月18日開催の取締役会において、平成30年8月31日の最終の株主名簿に記録された株主に対し、次とおり中間配当を行うことを決議いたしました。

配当金の総額	28,936千円
1株当たりの金額	5円50銭
支払請求権の効力発生日及び支払開始日	平成30年11月1日

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成31年 1月10日

株式会社きよくとう
取締役会 御中

EY新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 平 岡 義 則 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 洪 田 博 之 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社きよくとうの平成30年3月1日から平成31年2月28日までの第40期事業年度の第3四半期会計期間(平成30年9月1日から平成30年11月30日まで)及び第3四半期累計期間(平成30年3月1日から平成30年11月30日まで)に係る四半期財務諸表、すなわち、四半期貸借対照表、四半期損益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して四半期財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社きよくとうの平成30年11月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。